

坪井 剛 議員

(一般質問)

- 1 指定金融機関の輪番制について
- 2 地域バイオマスの利活用について

豊富な木質バイオマス

利活用の考えは？

問 西条市は地域の約7割が山間部であり、未利用のバイオマスである間伐材を含めた林地残材などが豊富に存在するが、本市におけるバイオマスの利活用についてどのように考えているのか。

答 バイオマス利活用の先進地である岡山県真庭市では、木材の集積地である利点を生かし、木質バイオマス発電所を核とした市内循環のバイオマス利活用システムを構築している。

一方、本市では、生産された木材チップは、県外の木質バイオマス発電所や市外の製紙工場で使用されている状況であり、大規模なバイオマス

発電所の建設に当たっては、送電線の容量制限などからも難しく、真庭市のような市内循環の利活用システムの構築は困難な状況にある。

そのため、本市としては、木材チップの供給地として、関係事業者の施設整備などを支援し、森林資源の利活用と健全な循環再生を促すことにより保水力のある土砂災害に強い山林を育み、環境に優しく災害に強い地域の構築に貢献していきたい。

今井 廣一 議員

(一般質問)

- 1 養護老人ホームの現状について
- 2 河原津干拓地について

有効活用の支援策は？

河原津干拓地

問 河原津干拓地について、現在の状況はどのようなになっているか。

また、地元自治会から要望書が提出されたと聞くと、河原津干拓地の有効活用に向け

た支援について、どのように考えているのか。

答

河原津干拓地は、国営燧灘干拓事業により、昭和35年に楠河東地区、昭和43年に楠河西地区の干拓地が完成し、現在、楠河西地区の農地は、農事組合法人たいよう農園、有限会社宇佐美牧場、有限会社河原津農園、農林水産省の4者が所有している。農地の活用方法は、本来、土地所有者が考えることであるため、現在利用されていない有限会社河原津農園の農地をどのように生かすのかについては、地元でじゅうぶんに話し合いを行い、合意形成を図ってもらうことが必要である



河原津干拓地

ると考えている。

農地の有効活用について、地域の意向がまとまり、営農のために援助が必要な際は、関係機関と協議を行いながら、支援を検討していきたい。

黒川 理恵子 議員

(議案質疑)

- 1 公益財団法人佐伯記念育英会の経営状況について
- 2 西条市一般廃棄物処理基本計画について

具体的な事業内容は？

佐伯記念育英会

問 公益財団法人佐伯記念育英会の設立の経緯や目的、具体的な事業内容は、どのようなものか。

また、市は、この法人に対してどのように監査や調査を行ってきたのか。

答

公益財団法人佐伯記念育英会は、旧丹原町出身で近畿日本鉄道株式会社取締役社長を務められた佐伯勇氏のご意思により、心身健全、学力優秀でありながら、経済的理由により就学困難な学生・生徒に対して奨学援助を行い、将来に貢献する人材を育成するため、昭和56年1月に財団法人として設立され、平成25年4月に公益財団法人に認可されたものである。事業内容は、佐伯 勇氏から寄附された2億5千万円を原資とし、その運用益により、毎年の奨学金給付や奨学生への図書贈呈、機関紙の発行などを行っている。奨学金については、丹原地域出身の高校生、大学生に、返済の必要のない給付型奨学金として、高校生には月額1万5千円、大学生には月額4万円の給付を行っている。

同法人の運営に関しては、監査などの市の権限は及ばないが、毎年、主務官庁である愛媛県教育委員会の指導・監督を受けており、公益認定基準を満たす適正な運営がなされているものと理解している。